

熊本・大分地方を襲った地震の復旧・復興に向けて

熊本県支部

大分県支部

会員の皆様には、本年、4月14日と16日に熊本・大分地方を襲った地震とその後の余震等の甚大な被害にあたって、お見舞いの言葉や心温まる励ましのお言葉をいただき、心から感謝申し上げます。

また、被災された方々への復旧支援活動や義援金活動にも重ねて感謝申し上げます。

現状につきましては、余震の数は減ったものの今なお、またいつ地震が発生するのかという不安や被災された方々への生活復旧への見通し、風光明媚な景観や生活施設がいつまで元通りになるのか等の心配もまだまだ残されております。

熊本においては、特に被害の大きかった南阿蘇や益城などの復興の見通しはまだまだです。また、大分県におきましても、建物被害が3400棟にも及び、今後の調査によっては増えることが予想されています。

しかしながら、そのような厳しい現状の中、学校に登校する子どもたちに元気な声もどってきたことが県民の皆様の大きな心の支えとなり、少しでも元気だった頃の熊本や大分を取り戻さなくてはと、一步一步日々前進しているものと確信しております。そして、一日も早い終息を願っているところであります。

まだ、先も見えない状況ではありますが、皆様からいただいた復旧復興を願ってのメッセージや支援の輪のありがたさを心にしっかりと刻み、引き続き、取組をすすめてまいりたいと思います。

今回、事務局からの近況報告のお願いに合わせ、皆様方へのお礼の言葉を申し述べさせていただきますとともに今後とも、引き続き、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【文責・瀬口卓士（大分県） 藤田まり子（熊本県）】

（追伸）

熊本においては、5月11日には全県下の学校が再開できました。中には、施設が被害にあいできる範囲での再開でしたが、これまで、多くの小・中学校で運動会が行われています。少しでも日常を取り戻したいという願いがあったからです。熊本市の銭塘小学校でも、例年より規模は縮小したものの、子どもたちからの「地震に負けない」「感謝」という強いメッセージが伝わり、大きな拍手をいただきました。写真を添付いたします。

